

(様式3)

自己評価結果票

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念という訳ではないが、いち住民として暮らしていけるよう区行事への参加・近隣へのアプローチを心がけている。		<ul style="list-style-type: none"> ・区行事への参加 ・老人会の参入 ・寄合い(会合)などの参加 ・事業所主催イベントのお誘い ・防災訓練の参加・協力
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	意識は共有できていると思われるが、実現にはまだまだ不十分。		まずは「くりあん」という所がある。ということを知っていただき、顔見知りになることだけを考えていこうと話合っている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	明確な形での取り組みはなされていない。特に地域へは。		啓発・広報活動
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	不十分だが出来る限り努めている。季節毎の産物(お花・野菜など)をいただいたり、イベントなどで作った物をお返ししたりしている。定期的に玄関先に植物を運んでいただける方もいる。勿論、自発的な厚意である。		イベント(会食)などにお誘いしているが、なかなかである。来ていただくより、こちらから行く事の方が重要であると考えている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	イベントの際、ご理解(迷惑)を得る意味で必ず近隣住民の家に説明に行きお誘いもしている。		<ul style="list-style-type: none"> ・区行事への参加 ・老人会の参入 ・寄合い(会合)などの参加 ・事業所主催イベントのお誘い ・防災訓練の参加・協力

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	出来ていない。 利用者中心で地域老人へまでは考えも至っていない。		まずは「くりあん」という所がある。ということを知っていただき、顔見知りになる。その辺から次が見えてくるのではと考える。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	理解している。 業務に追われ日々過ぎていく毎日の中で、事業所のふつうが出来上がってしまう。その辺を見直していける機会だと捉えている。		この項目に沿って（優先順位をつけ）会議をしていこうと考えている。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実施出来ていない。		この第三者評価を元を実施する予定にしている。市からも助言をいただいている。
9 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	取り組みは出来ていない。		ただ、法人（姉妹グループホーム）の方で予防介護事業の委託を受けており、その取り組みは遂行している。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現状、保証人に弁護士をたてている方が利用されている。成年後見には至っていないが先方様とは話をしている。		実際問題として取り組みたいと思っている。必要な時期がくれば活用したいと考えている。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会は設けてはいない。 ただ、虐待に行きつくまでの状況についてはよく話し合い、完全な介護は出来ないとして、ならどうサポート出来るのかを検討している。		理論的に学ぶ機会（研修など）を作る。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>退去（解約）は2件－死亡。 特に入居時においては、面接・入居説明等に時間をかけ、契約時にはその確認という意味で話している。</p>	<p>今後、死亡退去以外が発生した場合を想定して基本マニュアルを作成しておきたいと考えている。出来る限りとは思いますが全体として考えると、視野に入れておきたいと思う。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>あえて機会を設けてはいない。 ただ、想いを引き出せるような空気作りには注意している。</p>	<p>不満・苦情といえば、あまり良い気持ちにはなれないのが本心。ならそれをなくすには、やはり想いを知ることが必要であるし、我々の日々の姿勢が全てだと考えている。ちょっとした一言が重要だと思っている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>報告している。 ・1回/月の請求時 ・体調不良時 ・事故発生時 ・面会、外泊時 など</p>	<p>家族の状況に合わせて判断している。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>あえて機会を設けてはいない。 家族もいち介護者（援助者）であってほしい、そうでなければGHでの安定は図れないと入居前から話している。</p>	<p>もっと出入りを多くしてもらおう働きかける。そうすれば家族もいろいろな感情を持たれる事でしょうし、意見しやすい人間関係が構築されると思う。家族主催のイベント、食事会などを考えている。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>1回/月、職員会議を開催。 管理者の意見で決まってしまう事項が多いため、業務分担（責任者）を定めその方中心で動くよう努めている。意見を言わないから管理者が言ってしまう、それはトップダウンといわないといつも話している。</p>	<p>管理者がいち介護士であるため、他職員も納得出来ているのかも知れないが自主性に欠ける。まずは云うことやることが大事であり結果はその次のステップアップだと話している。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>努めてはいるが職員同士での遠慮が優先している。</p>	<p>まだ利用者より職員（業務）中心で合わせている感がぬぐえない。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	姉妹GHとの異動も考えてはいるが実例なし。		利用者のことを第一に考えたい。
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	明確な形での計画や取り組みはなされていない。ただ、管理者は主任を、主任はリーダーを、リーダーは介護士をという想いで業務を遂行している。		職員育成研修などを受ける。自分自身の役割が理解されていないと出来るわけがなく小さな集団では甘えも生じる。責任の所在を明確にすることが重要。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全く制限されていないが不十分である。		努力・そういう時間を作るのも技量。それも理解は出来るがそればかりではないと思う。率直に言うとはやはり人数。介護士はボランティアではない。そういう運営者サイドの意識改革または努力も必要だと考えている。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	働きやすい環境。 やらされるのではなく、やる仕事をモットーにしている。 運営者も現場を知るよう出入りを多く持つように心がけている。イベントには必ず参加している。		<ul style="list-style-type: none"> ・会食会などを実施されている。 ・個別面談実施。 ・他法人に比べ、何でも意見出来ている。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者との連携を大切にしている。 また、勉強会（介護福祉士など）も行っている。		必要とされているのか？それが向上心に繋がる。個別に話す機会をより多く持つ。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>現実問題として時間に限りがあるが、入居されてからでは取り返しのつかないこともあり出来る限り聞き取りを行っている。ただ出来ること出来ないことは、はっきり伝えるよう心がけている。</p>	<p>訪問回数が多くなると逆に不安を与えることになるので「家族」「利用者」それぞれの時間をとり、ゆとりのある面談に努めている。</p> <p>・面接技術を高める。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>現実問題として時間に限りがあるが、入居されてからでは取り返しのつかないこともあり出来る限り聞き取りを行っている。ただ出来ること出来ないことは、はっきり伝えるよう心がけている。</p>	<p>訪問回数が多くなると逆に不安を与えることになるので「家族」「利用者」それぞれの時間をとり、ゆとりのある面談に努めている。</p> <p>・面接技術を高める。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談・助言に努めている。</p> <p>他サービスの種類・特徴・対象者なども説明し、全てに申し込みが必要だとお知らせしている。また、実際の利用までにかかる時間(年月)のこともお話し、その間どう待つのかも助言している。</p>	<p>担当ケアマネへの引継ぎが出来ていないので徹底していくようにする。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>可能な限り事業所見学をしていただいている。</p> <p>また、体験利用も声かけている。</p> <p>が実際はそのような余裕はなく、1日でも早くという要望ばかりである。</p>	<p>家族主体が多く利用者主体になっていない。</p> <p>本人の安定なくしては、家族の安心もないという所を強調し利用までのスケジュールを組むよう努めたいと考えている。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>会話には上下は作らず、むしろ教わっている状況を作るよう心がけてコミュニケーションをとっている。趣味などには特に注意し興味を持つよう努めている。</p>	<p>もっと出来る事を探し出し、人に喜ばれる事を楽しんでいただけるように援助する。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	家族もいち介護者（援助者）であってほしい、そうでなければGHでの安定は図れないと入居前から話している。		利用者と家族と職員のトライアングルの関係が必要。いや、利用者と家族との橋渡しの存在なのかも知れないと考えている。家族もGHの生活に参加してもらおうよう努めていきたい。 ・家族に食事を作ってもらおう。
29	利用者との家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族もいち介護者（援助者）であってほしい、そうでなければGHでの安定は図れないと入居前から話している。		利用者と家族と職員のトライアングルの関係が必要。いや、利用者と家族との橋渡しの存在なのかも知れないと考えている。家族もGHの生活に参加してもらおうよう努めていきたい。 ・家族に食事を作ってもらおう。 ・お泊りもしていただく。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	あまり目を向けれていないのが現状である。以前は電話をしたり、散髪に行ったりしていたが少し遠のいている。（定期的に美容院に通われている方はある）		個別ケアの取り組みにおいて実行する。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	うまくいかない関係もある。適度に距離をおき、間に職員が入り込むよう努めている。		・リビングの席に注意する。 ・雑談の中でそれぞれのすばらしい部分を披露する。 ・性格上どうしても合わない方もいる。そういう方はむりやり一緒にという援助はしない。それはそれなりに付き合えるよう配慮する。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	実例はない。		体験入居があれば体験退去も考えている。 ・契約解除せず、他サービスを利用できる？ ・契約解除しても、しばらく空室をつくれるか？などを検討している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	無理強いはいらない、本人の意思に添えるよう努めている。	いろいろなカードを持てるよう研修参加を勧める。ただ、知識ばかりではなく柔軟な考えが必要である為ゆとりのある業務・環境づくりが重要であると考えます。
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	事前面接で聞き取れるだけ聞き取っている。その後は面会時などに家族から情報を頂くよう努めている。	今後も本人とよく話し、家族にも協力していただけるようお付き合いしたい。
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	1回/日ショートカンファレンスの時間を設けている。当然参加できない職員がいるのでカンファレンスノートを用いて引き継いでいる。	より密に共通認識がもて統一したケアが遂行できるよう努める。またケア計画にも反映させる。
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	十分とはいえない。日常での会話も重要として介護計画に反映させている。	三者での話し合いが重要だと実感している。雑談のように捉えてしまう事が多い。定例会として個別に開催したい。
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	十分とはいえない。即対応は出来ていない。	情報伝達、承諾はとれているが見直し計画書作成までになかなか至っていない。即対応するよう徹底する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ポイントを掴めているかは疑問だが、個別の様子・ケア実践は記録出来ているように思う。結果・気づきはどちらかというと弱い。計画へは反映させている。</p>		<p>計画の重要性。またその計画は記録から立てられるという理解を徹底して話し合っていく。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>今ひとつ理解できていない。 ただ、「何でもあり」という考えは持ち続けている。</p>		<p>柔軟な考えは「縛られない」ことが必要。ただそれにはあらかじめ事業所の特性を理解しておく事が重要。職員1人ひとりがのびのび考えを实践できるように、会議では職員の支援役に回るよう努めたい。</p>
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>事例はない。</p>		<p>地域密着としては欠かせない手段だと考えており、必要に協働したい。</p>
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>事例はない。</p>		<p>検討している。</p>
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>事例はない。</p>		<p>地域密着としては欠かせない手段だと考えており、必要に協働したい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切に受けられている。 医師とのメールのやり取りも行っている。		医師は勿論、病院関係者との関係を大切にしている。急変以外は事前に状態をFAXで報告して受診している。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	実例はない。 かかりつけ医への相談のみで、専門医までの受診には至っていない。		専門医チームが開催される研修に参加する。以前は研修発表もさせていただいた。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	診療所（かかりつけ医）の看護師が大変協力的。往診対応も気軽に来ていただいている。終末期・死後の処置などにも協力をいただいている。		今後もよりよい関係を築きたい。一度、研修会（講師）に招きたい。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	適切に行っている。口頭だけでなく、即情報を伝達できるよう書面も用意している。医師とのメールのやり取りも行っている。		受ける側・受けてもらう側の気持ちはよく分かる。我々がこうされたらありがたいという視点で行動している。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医が診療所で入院病棟を持っている。また訪問看護サービスもされているため、幅広く受入は可能である。ただ、集団生活であるため全てとはいえない。そのことは利用前から説明している。そういう運営者サイドの意向は共有できている。		実際、入院・終末期の実績もあるが三者での協議を行い、共有し取り組んでいる。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医が診療所で入院病棟を持っている。また訪問看護サービスもされているため、幅広く受入は可能である。ただ、集団生活であるため全てとはいえない。そのことは利用前から説明している。そういう運営者サイドの意向は共有できている。		家族には蜜に状態報告して、今後についても少しずつ話している。勿論、急変もありうるということもご理解を得ている。日ごろの家族との関係を大切にしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	実例はない。		外泊時などには、書面で注意事項・ADLなどを伝達している。
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1.その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	十分注意している。		GHにとって人間関係が全てと思っている。ただ、人間だから失敗もありえる。その時は素直に謝罪することを心がけている。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	担当職員を定め言いやすい状況をつくろうと努力している。		それが精神の安定につながる。ただ、実施しないと分からないものも多く実施まで至らないことがよくある。結果ばかりが気になっていると思う。 ・日常での声かけは選択できるように注意している。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員ペースになっていることが大いにある。・・・と思う。		<ul style="list-style-type: none"> ・居室で過ごすことを薦めたい。 ・居室の整備（環境づくり）
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	出来る限り努めている。 なじみの美容院に行かれている方もいる。		<ul style="list-style-type: none"> ・お買物 ・お化粧品 などに力を入れたいと考えている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>出来る方は少なく決まっている。一部分でも出来ることに参加し喜んで食事ができるよう心がけている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族を巻き込む。 ・1つのイベントのようにもっていけば新たな発見が出来るのではと思う。自身も出来る自信がもてれば日々の生活にも生かせる。
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・嗜好調査実施。 ・好みに合わせて可能な限り個々の食事を提供。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者で献立を組む。 ・選べられる食事を考えたい。
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>パターンを読みケア出来ている。失敗を恐れず普通の状態(下着)で過ごしていただけるよう援助している。</p>	<p>1つ1つ段階をふんで全てのオムツ類を外せるよう努めたい。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>おおよそ午後で決まっている。1人が入れば私もとといった感じである。無理強いはいしない。</p>	<p>利用者がいつでもいい事を理解出来ていないようにも思える。少しずつ変化を加えたい。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>個人に任せている。居室への案内、リビングベッドの活用などを声かけている。</p>	<p>コタツルームなどを検討したい。</p>
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>趣味等を把握し、それを活かせるよう心がけている。</p>	<p>外に目を向けて活動範囲を広げたい。</p>


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援できていない。		個人で所持されている方もあるが、その方も含めほぼ事業所で立て替えてしまっている。トラブル防止のため。 ・買物の際、お金の出し入れをして頂くよう援助する。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来る限り希望に添うよう努めている。		何も云わない方もある。そういう方にもどんどん外にでてもらえるよう支援したい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別プログラムを組んで外出している。家族にも働きかけどんどん外出・外泊をもらっている。		旅行にいければと思っている。(全体・個々)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望あれば制限せず使ってもらっている。季節の挨拶など、はがきではあるが一言書いてもらっている。		今は家族中心だが、知人・友人・お世話になった方など幅を広げ今後も付き合ってもらいたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室はアパートのようなものと説明している。我々が制限できるものではないという認識で応じている。 時間にも制限ない。		気軽にお泊りできるような場所にしてもらいたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指定基準の理解は・・・だが身体拘束については逆に意識していない。あってはならないものとして捉えられていると確信している。		言葉の拘束が一番難しい。相手への伝わり方・相手の理解力等にもよるので、日頃の会話・声の大きさ・声の質などにも注意をはらっている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>施錠は一切していない。 ただ、20時には玄関のみ施錠している。</p>	<p>今後も継続したい。</p>
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>安全であることは大前提のものとして捉えている。これがあっての生活だと考えている。</p>	<p>今後も継続し、安心できる生活を提供したい。</p>
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>職員が注意するもの(仕事)として、特にしまい込むようなことはしていない。</p>	<p>今後も継続したい。 もっと乱雑になってもいいのではとも思う。 (整理整頓は必要だが)</p>
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>十分ではないが会議などの一部で講習している。マニュアルも作成している。</p>	<p>繰り返し学んでいく。</p>
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>十分ではないが会議などの一部で講習している。マニュアルも作成している。</p>	<p>繰り返し学んでいく。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>十分ではない。</p>	<p>特に利用者に対しての訓練を実施する。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>十分ではないが、こういうことも起こるうるとい う話しはしている。</p>	<p>それを対策まで繋げていけるよう努めたい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>出来ていると思われる。家族とも共有できている。</p>	<p>今後も継続したい。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>職員は出来ているが、利用者は理解できていないと思う。</p>	<p>職員は投薬までに多数の目で間違いがないか確認するようシステム化をしている。勿論、薬の内容も理解していないと確認できない。利用者は出されるものという感じであるため間違いにもはば気づかない状況である。説明に努めたい。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>薬に便りがちになるが、飲食物・動きの意識は持っている。</p>	<p>どちらかという動きが足りないように思える。その人らしい生活をもっと追及することにより解消されるように思える。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>出来ている。</p>	<p>今後も継続したい。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>個々に応じて援助している。排泄量にも注意している。</p>	<p>同じものを提供するばかりでは限度がある。それぞれの嗜好もよく考えている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	一応のマニュアルは作成しているが、事例はない。		知識として繰り返し検討し、シュミレーションをする。手洗・消毒などは徹底している。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	買い置きはしないよう心がけている。又消毒等予防にも努めている。		もっと徹底し検討を繰り返す。薬剤・頻度・場所など。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	工夫というものは特になし。普通である。		外回りの整備を進める。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感はあるが生活感はもっとださなければいけない。利用者が居心地のよい環境とは?利用者それぞれによっても異なる。		きれいすぎて気が休めない、もっと散らかっていたほうがとも感じている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	もっと追求し空間作りに努めたい。テレビの数・複数のだんらん場所の整備を進める。		居室での生活を大切に、かつ安全性も高めて生きたい。集団での見守りの方が管理しやすいため一箇所に集めてしまうケアはGHには適していないと考えている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なかなかである。新品の物も多く居室で楽しめるようにはなっていない。もっと工夫しなければいけない。		居室で楽しめるよう整備する。
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	出来ていると思われる。		今後も継続したい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	もっと追求しなければならない。		表示・目印の整備。
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	今ひとつ理解できないが、力は活かし引き出せるよう努めている。でも失敗はあってよいと思っている。		ハード面のことを言われているならまだまだである。場所が分からない・どのように使うなどを追求しないといけない。
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	もっと追求し改善しなければならない。		<ul style="list-style-type: none"> ・中庭の整備。 ・だんらんスペース作り

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)